

目的 ウエスト部分の弾性的特長がベルト圧に与える影響はスカートやスラックスなどの保持能力に大きく関係してくる。そこで胴部各位置の法圧に対する歪量を測定するとともに、ベルト張力に対する各種曲率ごとの法圧を求め、さらにベルト張力を増大したときのウエストラインの位置の変化を測定し、着装条件と被服との関係を検討することも目的とした。

方法 一般に利用されている硬さ計と同じ原理を用い先端に1円アルミ貨幣(π cm<sup>2</sup>)を取付けたシャフトとスプリングバランスを組合せて圧力-歪関係を各種条件下で測定し法圧分布曲線を求めた。

結果 人体の弾性的恒変は大きく、特に運動服などの体質は同一歪に対する抵抗がきわめて大きい。またウエストラインにおける最大の曲率は側腹部の膈線のところにある。その分布曲線と歪分布曲線との関係は複雑な関係を示した。図は研究結果の一部を示し、ベルトをしめつけるにしたがってベルト張力の増大傾向を示したもので一般体質に比して筋肉質Zは持異性格を示している。

